



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

第 8 号



春に境内と本堂周辺にもみじを8本植えました。

間もなく本格的な夏がやってきます。檀信徒の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また日頃より浄泉寺護持のためご尽力頂いておりますこと、深く御礼申し上げます。

東日本大震災から一年数か月が過ぎようとしておりますが、

ます。今や私たちの生活は、電力なくしては何もできないと言っても過言ではありません。生活インフラのすべてにおいて電力が介在しています。震災以前は、環境保護や経済的目的により節電に取り組んでおりましたが、今度は夏場の電力需要に供給量の絶対量が不足するという大変な事になっております。

未だ復興は目に見える形で進んではおりません。特に原発事故に伴う放射能汚染によって、福島県や東北地方、さらに関東地方に被害が及び、終息の兆しすら見えておりません。そんな折日本中の原発が停止し、電力不足の問題が、私たちの生活に大きな影響をもたらして始めており

射能問題の終息願うばかりであり、被災地の復興とただただ放ります。さて話は変わりますが、今年の「花まつり」は、四月八日に多くの方々のご参加をいただき、ボーカルとギターのデュオ「キャンディードネージュ」のお二人と地元の童謡と抒情歌のコーラスグループ「わかば会」の皆様をお招きしてイベントを開催いたしました。通常の行事である御詠歌講、写経や坐禅会も、少しずつ参加者を増やしながら実施しております。

次に、今年のお盆の万燈会ですが、例年通り八月十五日の送り盆の夜、沢山の蠟燭を灯し、三味線と箏の演奏会を開きます。(詳細は三ページ)

また、秋には栃木方面への旅、(東北方面を計画しておりましたが、一泊二日としたため変更しました。) 浄泉寺ゆかりの名刹「大雄寺」にお参りし、平家の郷湯西川温泉の旅を計画いたしました。どうぞ奮ってご参加いただけますようお願い申し上げます。(詳細は次ページ)

最後に皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げご挨拶と致します。 住職 合掌

当面の行事等

8月 11日 新盆柵経

8月 13日～15日 柵経

8月 15日 万燈供養(三味線等演奏会)

午後6時～午後11時頃まで

(三味線等演奏会午後7時から8時まで)

8月 17日 施食会 午前9時から

9月 19日～25日 秋彼岸会

10月 27日(土) 観月会イベント

(別途ご案内申し上げます。)

10月 31日～11月 1日 栃木方面古刹参拝旅行

お盆のいわれ

お釈迦様の弟子に目連というとても優れた神通力を持つ尊者がいました。ある時、目連が神通力により大千世界の一切の境界を見渡すと、とても暗い霧のような所を押し合い、へし合いして、うごめく者たちの姿が見え、その中にやせ衰えた顔で、長い髪をふりみだしてフラフラと歩いている老婆の姿がありました。よく見ると、それは何と目連尊者の亡き母で、そこは餓鬼道の世界だったので。

目連は歎き悲しんで、すぐに鉢にご飯を盛って母のもとに行き、差し出すと、母は喜んで鉢を取り、飯をまるめて口に入れようとしますが、飯はたちまち火となり、彼女の指と唇を焼くのです。母は悲鳴を上げて鉢を投げ捨て、かえって飢えは増すばかりです。

そのさまを見て、目連は大声をあげて泣き叫び、泣く泣くお釈迦様のもとに走り、亡き母の悲惨な様子を申し伝えました。お釈迦さまは言われました。「尊者よ、君の母は生前、貪

欲で人に少しも施しをしなかったため、今の苦しみを味わっている。君一人の力で母を救うのは無理だ。今は、十方のもろもろの僧の力を借りるほかはない。七月十五日は、比丘比丘尼たちが集まって、修行中の総反省、つまり懺悔を行う日だ。この日、あたたかい食事や五種類の果物や清浄な水を用意して、香を焼き、灯火をともし、その他、心のこもった品々を大きなお盆に盛り、各地より集まってくる僧に供えなさい。懺悔を終わった僧たちは、清らかな気持ちでこの供養を受け、一心に君の母が苦しみからのがれられるように祈るだろう」

お釈迦さまの言葉通りに、目連が施主となって、供養が行われました。お釈迦様みずからもこの供養を受けられ、その前に僧たちに言われました。

「この供養を受ける前に、まず施主目連の母と七世の父母のために祈ろう。君たちの修行と戒律を保つ徳の力により、必ずや目連の母は救われるだろう」

この声を聞いて、目連とこの法要の場に集う僧たちは皆、大

いに歓喜し、そして目連尊者の母は、この日を限りに、長い間の餓鬼の苦しみからのがれることができたのです。

目連はお釈迦様に深く感謝し、たずねました。

「お釈迦様、私の母は今、三宝の功德の力と多くの僧の不思議な力により餓鬼道の苦をのがれることができました。未来の仏弟子と孝行な心を持つ者たちの父母が冥界の苦を受ける時、私と同じように供養することによって、父母を救うことができるでしょうか」

お釈迦さまは、「目連よ、後の世の、父母の幸いを想う孝心のある子孫が、七月十五日、僧が修行を終えて懺悔する日に、君と同じように百味の飲食を供養すれば、その功德により、父母の苦しみはたちまち滅するだろう。現在の父母も過去七世の父母のため、孝行の誠を尽くす日、それが七月十五日であり、盂蘭盆供養なのだ」といわれました。

お盆は日本の仏教行事で、最も普及した恒例行事です。

シリーズ浄泉寺の文化財



木造正観世音菩薩立像

この正観世音菩薩立像は、鎌倉時代の様式を模していますが、室町時代の作と推定されます。像高六十六センチメートル、臂張り二十五・五センチメートル、体奥十四センチメートル。いかにも観音らしい温容で、裳裾の様式に宋朝風を取り入れた精巧な彫りで、温容も優れた見事な彫刻です。

昔は、今の集会施設の位置に大きな観音堂がありました。今は本堂と向き合うように境内の観音堂に安置されており、昭和四十六年に酒々井町の文化財に指定されています。

毎月十八日の観音様のご縁日には、近所の観音講の皆さんが掃除をし、花をあげてお参りしております。霊験あらたかな仏様として慕われています。

秋の回参旅行のお知らせ

栃木県那須黒羽大雄寺参拝と湯西川温泉の旅(千葉県第三教区主催)を次のように計画いたしました。大雄寺は浄泉寺ともご縁のある寺院で、道元禪師のご生涯を描いた「禅」という映画の撮影にも使われた寺院です。是非皆様のご参加をお願いいたします。

期 日 10月31日～11月1日
費用 一人 二八、〇〇〇円
※八月末頃までに電話等でお申し込みください。

梅花流創立六十周年 記念奉賛大会に参加

去る五月二十九日に千葉幕張メッセで開催された御詠歌の全国大会に、浄泉寺御詠歌講も参加をいたしました。午前の記念式典等に続き午後新沼謙司ショーなどもあり楽しい一日でした。



お盆の迎えかた

お盆は、一年に一度、八月に、その家のご先祖をお迎えして十分な供養をする時です。地方により、またその家の習慣により、その迎え方は異なりますが、その一例を紹介いたします。

八月十三日の夕方、家の門口でオガラ（皮をはいだ麻の茎）を焚いて精霊（祖霊）を迎える風習や、お墓参りをし、墓前で火を焚いて先祖の霊を迎える習慣があります。これらを「迎え火」といいます。

十四日、精霊はその家に留まるとされ、仏壇や精霊棚、また墓前に灯明や灯籠をとますのは、万灯の一つとして精霊に供養する意味があります。

十五日の夕べ（または翌早朝）ご先祖様はその家を去るといわれておるところから「仏送り」ともいい、「送り火」を焚き、お供えをし、灯籠を流したり、水辺の無縁の霊に施しをする習慣があります。

しかし昨今では、河水を汚すのを避けるため、供物を河に流さず適宜処分するようです。

浄泉寺大施食会と 柵経のお知らせ

柵経のお知らせ

◎ 施食会 八月十七日（金）
午前九時から

当寺本堂でお勤めします。施食会は、もとは施餓鬼といっておりますが、現在曹洞宗では、人権の見地から「施食会」と呼ぶようになっております。近年は新盆を迎える方の参加が大半であります。この施食会は、縁のある無しを問わず、広く諸精霊に飲食を施す法会です。他のためにする供養は、自身に積む善徳となります。

◎ 柵経 八月十三日（月）

午前 伊篠・飯仲地区
午後 中央台・東酒々

午前 並木町・飯田町
午後 成田ニュータウン地区

午後 富里・佐倉地区

井地区

井地区

井地区

井地区

井地区

井地区

井地区

井地区

八月十五日（水）
午前 その他地区

※ 不在の方は、必ずご連絡をお願いいたします。原則として日程の変更は、お受けできません。この日程で不都合の方につきましては、昨年度より八月十三日から十五日までの毎日午後五時より当寺本堂にて、合同でご供養いたします。午後四三十分までに、お越しの上お申し込みください。

・ 供養料 三千元以上
・ 卒塔婆つき供養料 五千元以上

※ 卒塔婆つき供養の場合は、当日申し込みできません。

◎ 新盆について
今年新盆を迎えるのは、平成二十三年七月より平成二十四年六月までに逝去された方です。

◎ 新盆柵経
八月十一日（土）

※ 対象となるご家庭には、別途詳しくご案内申し上げます。

御霊おくり 万燈会

お盆の行事として、各地の寺院で万燈会が営まれます。万燈会には仏さまにたくさんの燈明を供え、滅罪生善や諸願成就を祈願する行事です。

日本では天平十六年（七四四）十二月、東大寺で一燈灯をともし、数千の僧侶が大仏の前を巡って供養したのが起源といわれています。

万燈会がお盆の行事となったのは、文治二年（一一八六）七月十五日、平家の滅亡を弔うため始められたそうです。

今年も浄泉寺では境内や墓地に数百の明かりを燈し、各家のご先祖様の御霊をお送りし、万燈会のご供養を行います。またイベントでは、酒々井町出身の三味線奏者の佐藤通芳氏をお招きし、力強い津軽三味線演奏をお楽しみいただきます。更に友情出演として、箏奏者の海宝幸子さんにもご出演いただきます。是非、お越し下さい。

日時 平成24年8月15日（月）
午後7時から8時まで

受付 午後6時30分から

場所 浄泉寺 本堂内

イス席 約80席

入場 無料

※ 予約は、不要ですが、イス席をご希望の方は、事前にお申し込みください。本堂に入りきれない場合は入場制限があります。

佐藤通芳氏プロフィール

津軽三味線奏者佐藤通芳氏を父とし、箏奏者海宝幸子を母として生まれる。父親の三味線への熱意に感動し、この世界に入る。和楽器の音色を聴きながら育つという恵まれた環境の中、十一歳から本格的に津軽三味線を習い、青森県で四年間の修行を積むなどし、二〇〇九年から東京を拠点に演奏活動を繰り広げている。



三味線奏者 佐藤通芳氏



釈迦降誕会 浄泉寺花まつり

恒例の花まつりイベントが、今年も浄泉寺で行われました。

当日は、住職の挨拶の後、本尊様へのご挨拶の法要、お釈迦様の御誕生をお祝いする法要、そして参加者の皆様一人ひとりが花御堂に祀られた誕生仏甘茶をかけ、お釈迦様の御誕生をお祝いしました。

今年、四月八日が丁度日曜日と重なり、大勢の皆様にお越しいただき、みんなで浄泉寺花まつりの行事を楽しみました。法要の後のお楽しみ第一部



キャンディードネージュのお二人



熱唱するわかば会の皆様

は、童謡と抒情歌を歌うコーラスサークル「わかば会」の皆様です。酒々井町を中心に活動するコーラスサークルで、最近聴いたり歌ったりする機会の少なくなつた童謡や抒情歌を、その歌の作られた意味等も勉強し、子供たちに伝えていきたいと願う素晴らしいサークルです。今回は、春にちなんだ歌を中心に、「おぼろ月夜」「春の小川」「シャボン玉」等を聴かせていただきました。参加者の皆様にも歌詞をプリントしたものが配られ、会場全体で懐かしい歌を聴き、歌いました。浄泉寺の境内はさわやかな、そして清らかな

な歌声につつまれました。

第二部は、様々なジャンルの有名曲のカバーやオリジナル曲を演奏し歌うデュオ「キャンディードネージュ」のお二人です。キャンディードネージュは、都内のライブハウスで主に活動しておりますが、時には野外でのイベントにも参加しているようです。ギターの優しい調べとボーカルの歌唱力がとても魅力的なグループです。

この日は、イエスターデイ等のビートルズナンバーや七〇年代のフォークソング、そして二つのオリジナル曲を披露してくださいました。

仏教豆知識

彼岸とは

かなたの岸の意味で、この世の中で煩悩迷う人の心の不安定を、波立つ川や海にたとえ、その向こう岸の世界をいいます。

彼岸では何にも煩悩することがなく、平安で静寂そのものです。その安らぎを願って、日本では三月の春分と九月の秋分に、それぞれ七日間を修行に励む期間

と定めたのが、お彼岸の行事です。

春分秋分のころは、暑からず寒からずで、修行するのに最も適した時期なので、特に彼岸は大切にされているのです。

彼岸会の起源

彼岸会はインドや中国にはなく、日本で、はじめられた行事です。その起源には諸説があり、一説に、聖徳太子の時代(五七四〜六二二)に遡るといわれます

が、最初の記録としては、大同元年(八〇六)、崇神天皇のために国分寺の僧に、春秋二季の七日間にわたり、金剛般若波羅蜜多経を転読させたのが彼岸の行事のはじめといわれます。

彼岸会は平安時代の半ばには恒例の行事になつていたようです。

また彼岸を春分、秋分の日(の前後七日)にさだめたのは、次のことが起源とされます。

中国、唐代の僧で中国浄土教を大成した善導大師の『観無量寿経疏』の中に「念仏して西方浄土の往生を願うには、春(三月)・秋(九月)の、日が真西

に没する時期がもっともふさわしい。なぜなら浄土は日が没する真西の方位にあり、その方位を念じて往生を願うことは浄土を観想するにふさわしいからだ」という意味のことが説かれています。

つまり浄土教の説によれば、彼岸は西方浄土であり、浄土を念ずる日である、ということになるでしょう。

また別の説明もあります。在家の人は普段は生業に忙しく、仏道を修行したり、善根功德を積むことが容易ではない。そこで春秋二季の七日間、悪を止め、善事を実行する週間と定めたのが、彼岸の行事である、というものです。

なお戦後の一九四八年に制定された「国民の祝日に関する法律」によれば、春分の日は「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」であり、秋分の日は「祖先をうやまい、亡くなった人々をしのぶ日」とされています。

また春分・秋分の日が「中日」と定められたのは天保十五年(一八四四)の天保暦からです。